



こんにちは、人権委員会です。暑い日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか？

第1学期末考査も終わり、夏休みが近づいてきましたね。

さて、今回は61・63ホームルームの人権委員と、レベラーズ部の皆さんに原稿を書いていただきました。

私は人権の授業で、公正な採用選考についての学習を通して、差別的な選考が最近まで存在していたことを知り、驚きました。今の個人を重んじる環境では考えづらいことですが、これまで差別に苦しんできた人たちのことを思うと胸が痛みました。また、人権学習は公正な社会を形成していく上で重要なのだと改めて実感しました。そのためにも、これからも人権についての学習を続けていきたいです。

私は公正な採用選考についての授業で、実際に以前の採用基準を見て、今では考えられないような基準が多いことにとても驚きました。今後、個人がより評価され、その人の強みをアピールできるような採用選考が行われるようにするためにも、一人一人が過去のことを知り、公正な採用選考への理解を深めることが必要だと思います。

現代においても、女性に対する構造的な差別は根強く残っている。職場での昇進機会の格差や、無意識のうちに課される家庭内での役割など、性別によって期待される生き方に違いがある。

この現状は、人権の観点から見て問題である。社会全体が前提としてきた価値観や慣習を問い直し、個人の意志と能力に基づいた選択が尊重されるべきだ。形式的な平等にとどまらず、実質的な平等を実現するためには、制度の改善だけでなく、私たち一人一人の認識と行動の変化が必要であると考えます。

差別を見過ごさず、誰もが尊重される環境をつくるのが、人権を守る第一歩であり、すべての人が平等な権利を行使することのできる社会の実現に不可欠であると考えます。

こんにちは、レベラーズ部です。今回の人権通信ではレベラーズ部の活動について紹介させていただきます。

最初に4校交流・共同学習についてです。これは、4校(ひのみね支援・小松島・小松島西・城ノ内)の生徒がひのみね支援学校に集まり、さまざまな活動を通して交流するものです。昨年は7月に共同で美術作品の制作を行い、12月にはグループに分かれてポッチャをしました。障がい者に対する理解が深まるだけでなく、ひのみね支援学校・小松島高校・小松島西高校の生徒の皆さんとの交流することができ、とても楽しいひとときを過ごすことができました。今年は7月に共同で美術作品の作成を、12月にはひのみね支援学校の体育で実施しているさまざまなパラスポーツと一緒にして交流することになっています。

次に、子ども食堂ボランティアについてです。レベラーズ部はクレール子ども食堂とぽかぽか食堂にボランティアとして参加しています。クレール子ども食堂は毎月第4土曜日、ぽかぽか食堂は毎週木曜日の夕方に開催していますが、そのうち都合のつくときに参加しています。子ども食堂ボランティアに参加することで、かわいい子どもとふれあうとともに、子ども食堂が子どもだけでなく、親にとってもほっと一息つけたり、他の人たちとつながったりする大切な場所であるという、子ども食堂の意義についても知ることができました。

このほかにも文化祭での人権展やフードドライブなどの活動もしています。興味のある方は、ぜひ一度部会に来てみてください。お待ちしております。

「中・高生等による人権交流集会」は、県内の中高生が集まって、人権について考え、語り合う会です。昨年は12月に徳島県教育会館で開催され、ホロコースト記念館館長の吉田明夫さんによる「アンネ・フランクとホロコーストの歴史から学ぶ」と題した講演の後、中・南・西の各ブロックに分かれて分科会が行われました。中部ブロックは「多様性」をテーマとし、中部だけでなく南部・西部の中高生とも意見を交わし、交流を深めました。

今年は7月12日に第1回生徒部会があり、本校からも2名の生徒が参加しました。東日本大震災の被災地を視察した高校生3名によるレポートの後、グループに分かれて交流を行いました。次回は8月3日に「外国人とともに地域の防災を考える」をテーマに、研修や交流を行う予定です。レベラーズ部員だけでなく、部員以外からの参加者も募集しています。講演会や研修会だけの参加や、交流集会当日のみの参加もOKですので、興味のある方は、担当の先生(前期生は佐藤先生、後期生は北條先生)まで申し出てください。

生徒の皆さんの参加をお待ちしています。

61・62ホームルームの人権委員、及びレベラーズ部の皆さんの意見はどうでしたか？この機会に、ご家族や友人たちなどとも人権問題について考えたり、話したりしてみてください。

この人権通信が、人権について考えるきっかけになればと思います。

